



広報日造協

www.jalc.or.jp

第447号

2011年6月10日

発行／社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03(5684)0011 FAX03(5684)0012

本号の主な内容

- 2、3面 特集 第5回技術情報共有発表会
 4面 【学会の目・眼・芽】第24回 横張 真氏
 Safe to fail社会とランドスケープ分野の果たすべき役割
 【緑滴】樹の力 西谷勝之
 【協会だより】熱中症に気をつけましょう

平成23年度第1回理事会を開催

総会議案など審議



平成23年度第1回通常理事会を6月1日、東京・千代田区麹町の弘済会館で開催した。

冒頭、藤巻司郎会長は「東日本大震災が発生して間もなく3ヶ月が経つが、一日も早い復旧・復興を願わずにはいられない。全国の会員からは被災会員への支援金を頂き、会員の皆様に心から御礼を述べたい。

協会では陸前高田市の津波被害を免れた希望の松や千葉県内の地盤液状化の被害状況調査などにも対応している。今年11月に創立40周年を迎えるがこの10年

の活動状況の取りまとめや、東日本大震災の復興支援調査などを実施したいと考えている。一層のご支援ご協力を賜りたい」と挨拶した。

来賓として、国土交通省公園緑地・景観課の舟引敏明課長は、震災で被害を受けた日造協会員へのお見舞いと、日頃の日造協の活動への謝意を述べるとともに、「今後とも、未来へ引き継ぐ美しく貴重な都市環境

の活動状況の取りまとめや、東日本大震災の復興支援調査などを実施したいと考えている。一層のご支援ご協力を賜りたい」と挨拶した。

同日支部長等会議を弘

里山・里地・里海の連環を

より持続的発展の観点から

宮城大学・森山雅幸教授、コンサルタント分野からR

LAの会設立準備会・高橋

靖一郎幹事、国交省、環境

省、文化庁からそれぞれの

視点からの発表のあと、登

本報告書は、東日本大震災復興支援緊急集会を開いた。学会員をはじめ、民間事業者、学生などについての報告が行われた。

案として平成22年度事業報告・決算報告、23年度事業計画(案)・収支予算(案)及び新法人移行定款(案)等について審議を行い、了承されたほか、「業界実践活動2011決議」(案)、

東日本震災対策本部の動きなどについての報告が行われた。

日本造園学会は5月21日、東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂で「東日本震災復興支援緊急集会」を開いた。学会員を中心とした約500人が集まつた。

「震災復興に向けてランドスケープは何をなすべきか?」をテーマに意見交換などを実施し、産官学が協働して具体的活動に向けて取り組む認識を共有した。

日本造園学会の武内和彦会長は、東日本大震災に関する

プログラムでは、東京大学・下村彰男教授による復

生会議が行われた。

本総会は、東日本大震災復興支援緊急集会を開いた。学会員を中心とした約500人が集まつた。

「震災復興に向けてランドスケープは何をなすべきか?」をテーマに意見交換などを実施し、産官学が協働して具体的活動に向けて取り組む認識を共有した。

日本造園学会は5月21日、東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂で「東日本震災復興支援緊急集会」を開いた。学会員を中心とした約500人が集まつた。

特集

日造協 第5回技術情報共有発表会開催

技術情報共有発表会プログラム

総支部	テーマ
関東・甲信越支部 (山梨県)	校庭芝生化「山梨県での取り組み」 講演会や園庭芝生化ボランティア、テレビ放映等を通じた啓発活動の様子や、ティpton工法の実施結果など (株)津々美造園 代表取締役 堀 明伸
近畿・中部・中国・四国・九州・沖縄 (大阪府)	UAE砂漠緑化・中国黄砂対策事業の実績と今後の海外緑化砂漠地における緑化への取組み、並びにその技術について、また、海外における砂漠緑化の需要と今後の取組みについて (株)タイキ 代表取締役副社長 中野 格
中国・四国・九州・沖縄 (山口県)	やせ地の緑化「草の原」を目指して 工事発生土による造成が続いているやせ地を自然環境配慮型の緑地にするための基礎調査や植生実験、雑草の研究などの取組みについて (株)多々良造園 代表取締役 多々良 健司
四国・九州・沖縄 (香川県)	高松市立玉藻公園「庭師の一息(いっぷく)百年先の枝を見る」 玉藻公園の内苑作庭者 大胡勘蔵氏を訪ねて (株)森造園 代表取締役 森 茂
九州・沖縄 (鹿児島県)	薄層緑化における各種工法の優位性 薄層緑化における各種工法の優位性の比較検討及び効率的維持管理手法の案出を目的に行なった試験施工の3年間に亘る追跡調査結果 (株)タイキ 代表取締役 岸野 純一
社日本造園学会	造園技術報告集より 歴史空間の保全と活用におけるユニバーサルデザインの推進方策 国営吉野ヶ里歴史公園事務所 所長 井村 久行(発表者) 復建調査設計株式会社 宮迫 勇次、宮崎 保通 第一復建株式会社 箱崎 齊

・協会が社会奉仕活動として何ができるか
・芝生化への啓発活動を推進すること
・子供たちが体感できる緑のステージ作りを行う等を踏まえ、平成18年度より、校庭・園庭の芝生化に取り組んできた。

平成18年・19年に、合わせて9ヶ所の園庭の芝生化が無償でを行い、その集大成

として何ができるか
・芝生化への啓発活動を推進すること
・子供たちが体感できる緑のステージ作りを行う等を踏まえ、平成18年度より、校庭・園庭の芝生化に取り組んできた。

校庭芝生化「山梨県での取り組み」

日造協は4月28日、第5回技術情報共有発表会を鹿児島東急インで開催した。この発表会は技術委員会技術情報部会が、開催地の総支部・支部事務局及び委員の協力の元に運営している。目的は、総支部・支部の調査研究事業や会員が企業活動等を通じて行った取組み等により得られた技術情報を日造協の共有財産として会員企業の活用に資するとともに、会員企業の技術者の共有・活用を通じて技術力の向上を図ることである。主催者代表として藤巻司郎会長が「それぞれの技術向上を図り、造園業界をより良くしていただきたい」と挨拶。発表会の後、九州総支部・鹿児島県支部主催による交流会が行われた。

全国の技術情報を「発信」

造園業界の発展に向

けた。この工法では、これまでどおり朝夕散水を行った。これまでと比べてコストも軽減することができた。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である。これでは造園家の仕事とは言えないのではないか。

施工場所の面積、現況土壌の構造、成分内容、利用内容、利用者数等を把握したことや植栽基盤作りが大

き成長している。
常温潤状態に保ち活着を促進する。

管理については、コスト低減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

まだ実証段階であるが、

から公害対策も考えたい

た。

ホジ芝1畝につき300gで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。

この工法では、これまでと比べてコストも軽減するこ

とができる。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である。これでは造園家の仕事とは言えないのではないか。

施工場所の面積、現況土壌の構造、成分内容、利用内容、利用者数等を把握したことや植栽基盤作りが大

き成長している。

常温潤状態に保ち活着を促進する。

管理については、コスト低減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

まだ実証段階であるが、

から公害対策も考えたい

た。

ホジ芝1畝につき300gで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。

この工法では、これまでと比べてコストも軽減するこ

とができる。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である。これでは造園家の仕事とは言えないのではないか。

施工場所の面積、現況土壌の構造、成分内容、利用内容、利用者数等を把握したことや植栽基盤作りが大

き成長している。

常温潤状態に保ち活着を促進する。

管理については、コスト低減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

まだ実証段階であるが、

から公害対策も考えたい

た。

ホジ芝1畝につき300gで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。

この工法では、これまでと比べてコストも軽減するこ

とができる。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である。これでは造園家の仕事とは言えないのではないか。

施工場所の面積、現況土壌の構造、成分内容、利用内容、利用者数等を把握したことや植栽基盤作りが大

き成長している。

常温潤状態に保ち活着を促進する。

管理については、コスト低減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

まだ実証段階であるが、

から公害対策も考えたい

た。

ホジ芝1畝につき300gで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。

この工法では、これまでと比べてコストも軽減するこ

とができる。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である。これでは造園家の仕事とは言えないのではないか。

施工場所の面積、現況土壌の構造、成分内容、利用内容、利用者数等を把握したことや植栽基盤作りが大

き成長している。

常温潤状態に保ち活着を促進する。

管理については、コスト低減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

まだ実証段階であるが、

から公害対策も考えたい

た。

ホジ芝1畝につき300gで時き芝を行なう。その後、8mm厚で目土散布転圧を行なう。毎朝夕散水を行なう。その後、9時まで時き芝を行なう。

この工法では、これまでと比べてコストも軽減するこ

とができる。

以上の活動を推進するには、コストの削減を考え、1年目は施工業者が管理、2年目は学校関係者と施工業者が協同管理を行なった。

作業手順は植栽基盤の土壌、排水性の調査、土壤改良を行なった。植栽基盤はマサトが主で、厚さ100mm程度に客土されおり現状では、ティフトン芝時芝工法を提案した。この工法は芝苗の植え付け前に基盤改良を行い、ティフトンほどコストをめざし児童・保護者、近隣住民らが参加して鳥取方式と呼ばれるbolt類を問はずれば良い。この工法は種類を問わず緑であれば良いといふ考え方である

